

パートナーシップセミナー

「介護は女性がするもの」そう思い込んでいませんか

いざというときのための「男性介護教室」  
(全3回)

超高齢社会を迎え、家族の介護に男性が参加する機会も増えていきます。介護に直面したときに介護者が孤立しないよう、基礎知識や具体的な技術などを分かりやすく学びながら、少しでも悩みを解消できる場として開催します。



| 回数  | 内容        | 日程        | 時間         | 場所          | 講師  |
|-----|-----------|-----------|------------|-------------|---|
| 第1回 | 介護の一般的な知識 | 10月3日(木)  | 13時30分～15時 | ラポート        | 宇城市地域包括支援センター<br>安藤 和代 主任介護支援専門員<br>後藤 真弓 保健師 |
| 第2回 | 介護の一般的な技術 | 10月17日(木) |            |             | 済生会みすみ病院<br>五十嵐 稔浩 作業療法士                      |
| 第3回 | 介護食の調理法   | 10月31日(木) | 10時～13時    | 宇城市保健福祉センター | 宇城市健康づくり推進課<br>森田 沙代 管理栄養士                    |

**対象** 市在住または勤務の男性  
原則全ての回に参加できる人  
**定員** 先着15人  
**参加費** 無料

**申込先** 人権啓発課男女共生係  
☎32-1708 FAX32-0110  
**申込方法** 電話または FAX  
(氏名、住所、電話番号を記入)  
**申込期限** 9月26日(木)

私は、豊福小学校のPTA副会長と宇城市PTA連合会の広報委員を務めています。今回初めて男女共同参画社会推進委員になりました。5女1男の6人の子どもがいて、仕事と家事と子育ての真っ最中です。  
男女共同参画社会推進委員として、これまでの経験を生かして、責任を持ち、日々勉強をしながら努力していきたいと思っています。男女が公平な職場や地域になることが一番だと考えています。

村上 里子 委員



**趣味** カラオケ  
**特技** 人前で堂々と歌が歌える  
**座右の銘** 笑う門には福来る

市男女共同参画社会推進委員を紹介します

慌てないで！災害後の住宅修理トラブル

**事例** 台風で屋根が破損したので、慌てて手元にあったチラシの事業者に工事を依頼したが約200万円と高額だった。もっと安い屋根材を使うようお願いすると、「これしか扱っていない」と言われた。雨漏りで困っていて仕方なく契約したが、やはり高額なので解約したい。(70歳代 女性)



アドバイス

豪雨や台風などの自然災害による被害で、住宅の修理などが必要な場合でも、慌てずに複数の事業者から見積もりを取ったり、周囲に相談したりした上で慎重に契約しましょう。日ごろから、安心して依頼できる事業者についての情報を集めておくことも大切です。

相談は **消費生活センター ☎33-8277** へ

みんなで学ぼうじんけん  
生涯学習課 ☎32-1934

本県博通地域人権教育指導員が学校で働いていた経験などから「じんけん」の今をお伝えします

戦争を語り継ぐ

山鹿市の来民開拓団供養塔を訪ねました。広場の一角にある石碑には、「満州」移民として中国東北部で亡くなった276人の名前と年齢が刻まれています。来民開拓団は、終戦を迎えた1945年8月15日には277人が暮らしていました。しかしその日から3日間で、現地人の襲撃を受けて集団自決。ただ1人の伝令者を残して全員が死亡するという事件は「満州」移民史上例のないものでした。犠牲者の半数近くが15歳以下の子どもたち。一番多いのは3歳と4歳合わせて27人。20・30代の男性は兵隊に徴用されたため、子どもや女性、お年寄りがほとんどです。幼い子どもたちが父親に助けを求めながら死んでいった声が聞こえるようで、何ともいたたまれなくなりました。全国から926の開拓団が「満州」に投入され、熊本は全国で3番目の数。私の父も、一家12人で「満州」に渡った開拓

団の一人でした。15歳だった父は一家で広大な農地を耕して稲作に励みましたが、長男で17歳だった伯父は兵隊に志願しました。入隊から10カ月後、日本はポツダム宣言を受諾。家族は帰国できたものの、伯父はソ連軍の捕虜となり、4年半のシベリア抑留生活を送りました。今年93歳になった伯父は、その時のことを「氷点下30度を下回る極寒の地で、1日の食料は黒パン1切れと薄いスープ2杯のみ。寒さと飢えでガリガリに痩せ、最初の1、2年で30・40代を中心に大勢の人が命を落としました。戦争は人を狂わせ、人間の全てを奪ってしまふ」と語ります。  
第2次世界大戦が終わり74年がたった今も、世界には1万4450発の核弾頭が存在しています。世界には核による「抑止力」をさらに強化しようとする動きもあります。子どもたちに平和な未来を届けるために、私たちは過去の事実を学び、語り継いでいかなければなりません。だからこそ唯一、戦争の惨禍を繰り返さないための「抑止力」ではないでしょうか。